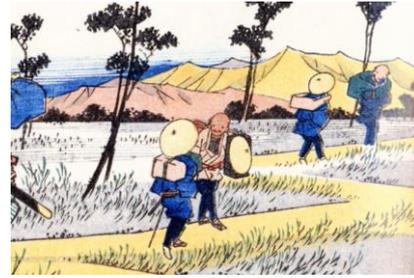


街道を歩く

木曾街道（上街道）

（名古屋から今渡りまで）
 稲置街道
 （楽田追分から犬山まで）



広重画より

木曾街道（上街道、稲置街道、犬山街道とも呼ばれる）

尾張藩（尾張一国の他美濃、三河、近江、摂津合わせ 61 万 9 千石）の藩祖義直（幼名義利）は、元和元年（1615）和歌山城主浅野幸長の娘春姫と結婚。お台所費用を心配した家康の配慮で幕領であった木曾山川を拝領、木曾方面にかなりの藩領と山林の領有を認められた。（米収でないので表高に含まれないが、換算 7 万 3 千余石）

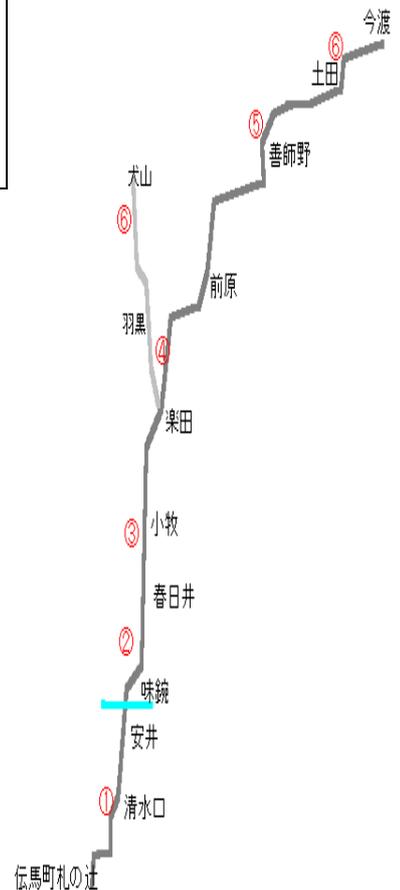
翌元和 2 年(1616)それまで居た駿府より名古屋城に移った。領国経営の一環として名古屋と木曾を結び付ける街道の整備が必要となった。

そこで元和 9 年(1623)義直は、名古屋（清水口）から中山道（木曾路）に抜ける街道の整備を成瀬正成經由江崎善左衛門に指示した。小牧宿は小牧山麓の町屋を東に移動させ名古屋城下清水口から小牧までを新設。小牧から善師野の間は中世からの清州から小牧經由東山道に通じる道を整備した。善師野から土田までは太田宿ができる前の中山道を利用した。寛永 2 年(1625)には楽田追分から犬山城までの新道が開かれた。

街道はところどころ屈曲させた柵形とし、川には橋が架けられていなかった。（除く濁水期）名古屋の“札の辻”から小牧まで 3 里 8 丁、小牧から善師野まで 3 里、善師野から土田まで 2 里、中山道に合流。名古屋から中山道伏見宿まで 10 里余の道のり。（伏見宿は元禄 7 年(1694)に設立）

街道は幕府の五街道に準じ、道路幅 3 間 2 尺（約 6 m）、両側に高さ 3 尺（約 90 c m）の土手を築き、松並木を設けた。また一里塚には榎を植えた。宿には本陣 1、問屋 2。人馬は 25 人、25 疋が定備されていた。

約 10 年がかりで完成。寛永 13 年(1636)にはこの街道を通り参勤交代が行われた。



	日時	歩いたコース
講座	H11-4-21	楽田駅・楽田追分・馬頭観音・五里塚旧跡・野呂塚・観音寺・朝日交差点・入鹿切供養碑・新郷瀬川・道標・虫鹿神社・前原バス停
	H11-6-2	犬山駅・前原バス停・天道宮神社・熊野神社（塔野池）・清水寺・善師野宿（問屋澤木家、本陣日比野家、禅徳寺）・善師野駅
	H11-6-16	善師野駅・石拾峠・石原集落・真禅寺（森長可墓）・土田城址・勿橋・可児川駅
	H11-7-7	可児川駅・報恩寺・本陣跡・今渡渡し場跡・弘法堂・中山道一里塚・桜井の泉・白鬚神社・可児川駅
	H11-8-18	楽田駅・永泉寺諸鑽神社・追分・興禅寺・羽黒城址・磨墨塚・五郎丸交差点・万願寺・薬師寺・犬山駅
	H11-9-29	犬山城下（木下城、徳授寺、専念寺、文化資料館、犬山城、針綱神社、鶴飼湊跡、余坂、奥村邸、一里塚跡（余坂神社）など）
個人	H11-12-18	札の辻(10:10)・那古野神社・久屋大通り・清水口(12:00)・長久寺・志賀橋・安永寺・成願寺・味鉢の渡し跡・味鉢神社・首切り地藏・二子山古墳・味美駅(15:30)
	H11-12-19	味美駅(9:05)・丹羽家御小休み所・一里塚跡・安藤家御小休み所・穂麦坂芭蕉句碑・春日寺・外山神社(10:15)・小牧宿内（高札場跡、岸田家、御殿跡、戒蔵院道標）・秦野家・清流亭・田県神社(12:20)・楽田城北の門石仏群・楽田城・楽田駅（15:30）

その後 H25-10-3 テレビ塔一味美、-11、味鉢一味岡、-17、味岡—善師野資料見直す。

参考：講座資料、県歴史の道調査報告書、小牧厳暑：小牧宿、小牧の道、小牧史、犬山史
 春日井市文化財友の会：木曾街道歩く、network2010 他、